

高島「環の郷農業」の推進方策は？



山川 恒雄議員

問 国の米政策改革推進の中で、いよいよ平成19年産から「品目横断的政策」が導入される。国の政策に対する高島市の対策はどうか。市の環の郷農業の観点から以下を尋ねる。

① 県環境こだわり農業の推進と「高島ブランド」確立の具体的な推進方策は

② 高島独自の直接支払い制度とは

答 産業経済部長

- ① 環境こだわり米生産面積は、約208ヘクタールで5年後に87ヘクタール増を目標としています。
- ② 田んぼや水路の生き物を見て、買い求めてくれるような農産物や環境づくりが求められており、直接支払いも必要になってきます。
- ③ 市の特産品拡大策の現状の問題点ならびに課題および将来展望は
- ④ 鳥獣害対策と食肉加工への具体的な取り組み方策は
- ⑤ 市内直売所の整理と直売所を核とした食育および地産地消の強力推進に対する所見は



- ③ 農産物や農産物加工品を中心に、地域と協力して地域特産品目の開発と商品化を進める必要があります。
- ④ シカ肉をジビエ料理（野性動物の料理）として有効利用できないか県と検討を始めたところです。協議会を設けメニユー、レシピの開発を考えていただきます。
- ⑤ 身近なところで流通することで、環境負荷の低減につながり、地域の農産物を利用することで、地域内自給率の高まりも期待できます。

その他の質問

- 高島病院の経営改善方策について
- 陽光の里の今後の位置づけについて

財政再建計画・平成18年度予算編成方針と新庁舎計画について



水田 善昭議員

問 高島市の財政は危機的状況にあり、その改善の一環として市民に対して財政再建計画を示し意見を公募されたが、その内容と今後の市政への活かし方を問う。

答 市長

庁舎建設予定地のボーリング結果についての調査でこれまで思っていたより、軟弱な地盤であるという数字が出てまいりました。そうしたことから、今後防災面あるいは費用面等多面的に検討し、より慎重かつ丁寧に判断し推進していかねばならないと考えております。

18年度の予算編成において、明日の生活への心配する市民に対してどのような希望を与え執行されるのかを問う。合併項目の中で重要な案件として挙げられている新庁舎建設について、市長は合併協議を尊重しその推進を約束

ので大切にしながら、何とか効率性を更なる工夫によって見出すとともに、まずは財政問題に対する指針を立てた上で進めていきたいと考えております。

